平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	財務諸表論 (Financial Accounting)			**授業コード**	E020401
担当教員名	坂元　英毅			**科目ナンバリングコード**	E20608
配当学年	2	**開講期**	前期		
必修・選択区分	コース必修 　会計ファイナンスコース 選択 　地域マネジメントコース 　Bソリューションコース 　スポーツビジネスコース 　福祉マネジメントコース 　こども・福祉コース	**単位数**	4		
履修上の注意または履修条件	出席が2/3を下回ると期末試験受験は不可能となります。				
受講心得	1. 毎回必ず出席してください(安易に欠席すると講義が理解できなくなる恐れがあります)。 2. 教科書を必ず購入してください。 3. 予習・復習を必ずしてください。 4. 授業で使用するスライドは、環境への配慮から個別配付はしません。各回終了後、ユニパにアップロードしますので、各自でダウンロードもしくはプリントアウトしてください。				
教科書	桜井久勝『会計学入門〈第4版〉』日本経済新聞出版社、2015年。 そのほか適宜指示ないし資料配付します。				
参考文献及び指定図書	大串卓矢『面白いほどよくわかる会計のしくみ』日本文芸社、2007年。 教科書だけで十分理解できない場合に活用してください。				
関連科目	簿記入門、簿記原理、会社簿記、原価計算論A・B、管理会計論A・B、監査論A・B、経営分析				

授業の目的	本講義は、会計学の初学者を主な対象として、会計や財務諸表が社会の中でどのように役立っているのかを理解し、財務諸表の仕組みを知り、財務諸表が読めるようになることを目的とします。財務諸表が読めるようになることで、新聞やインターネット等で触れる様々な経済ニュースに対する洞察力が高まります。例えば、度々世の中を騒がせる企業の不正ないし不適正会計はなぜ起こるのか、またそれによってどのような影響があるのかなどについて、自分自身の考えを持つことができます。
授業の概要	わが国の企業は、法によって貸借対照表や損益計算書といった財務諸表の作成が求められています。そこで、これら財務諸表について、なぜそれが必要で、どのように作成するのか、さらに作成した後にどのように公表するのか、という観点から一つ一つの理論を紐解いていきます。また、企業だけでなく、自治体や医療法人など非営利組織の財務諸表についても取り扱います。 授業中、適宜グループディスカッションや発表を求め、それに対して教員がコメントすることで理解を深めていきます。

○授業計画	
学修内容	**学修課題(予習・復習)**
第 1 週 ： 会計の役割 会計の定義、管理会計と財務会計、企業会計への法規制について説明し、社会において会計や財務諸表がどのように役立っているのかを理解します。	教科書の該当部分の読み込み(2h)
第 2 週 ： 会計の役割 会社法による会計(債権者保護、株主保護)、金融商品取引法による会計、税法による税務会計について説明し、わが国における制度会計の全体像を理解します。	教科書の該当部分の読み込み、会計の役割について自身の意見をまとめておく(2h)
第 3 週 ： 利益計算の仕組み 企業活動の描写、複式簿記の構造(仕訳帳、元帳への転記)について説明し、簿記と財務諸表の関係性について理解します。	教科書の該当部分の読み込み(2h)

第 4 週 ： 利益計算の仕組み 複式簿記の構造（決算と財務諸表の誘導）、利益計算と財務諸表（損益法と財産法、財務諸表の体系）について説明し、貸借対照表、損益計算書を中心とした財務諸表の意義について理解します。	教科書の該当部分の読み込み（2h）
第 5 週 ： 利益計算のルール 会計基準の必要性とその設定、企業会計原則の一般原則について説明し、不適切会計が起こる背景や経営者の動機を理解します。	教科書の該当部分の読み込み（2h）
第 6 週 ： 利益計算のルール 損益計算書原則（現金主義会計と発生主義会計、発生主義会計と基本原則）、貸借対照表原則（資産の原価と時価、現行の資産評価基準）について説明し、現行会計規範の基本的な考え方を理解します。	教科書の該当部分の読み込み（2h）
第 7 週 ： 売上高と売上債権 企業活動と財務諸表、営業循環における収益の認識（販売基準、生産基準、回収基準）について説明し、収益の実現概念について理解します。	教科書の該当部分の読み込み（2h）
第 8 週 ： 売上高と売上債権 利益計算への影響の比較、収益認識基準の適用（通常の販売、工事契約、割賦販売）、売上債権について説明し、収益に関する会計処理について理解します。	教科書の該当部分の読み込み（2h）
第 9 週 ： 棚卸資産と売上原価 棚卸資産の範囲、棚卸資産の取得原価（購入の場合、自社生産の場合）について説明し棚卸資産の概念について理解します。	教科書の該当部分の読み込み（2h）
第10週： 棚卸資産と売上原価 棚卸資産の原価配分（継続記録法と棚卸計算法）、棚卸資産の期末評価（棚卸減耗費、棚卸評価損）について説明し、棚卸資産の具体的な会計処理について理解します。	教科書の該当部分の読み込み（2h）
第11週： 固定資産と減価償却 固定資産の範囲と区分（有形固定資産、無形固定資産、投資その他の資産）、固定資産の取得について説明し、固定資産の概念について理解します。	教科書の該当部分の読み込み（2h）
第12週： 固定資産と減価償却 固定資産の原価配分（減価償却の目的と効果、各種の減価償却方法、固定資産の減損、除却と売却による損益）、繰延資産（意義、会社法上の繰延資産）について説明し、固定資産の会計処理について理解します。	教科書の該当部分の読み込み（2h）
第13週： 金融活動の資産と損益 余剰資金の運用、現金および預金、有価証券の範囲と区分について説明し、金融資産の概念について理解します。	教科書の該当部分の読み込み（2h）
第14週： 金融活動と資産と損益 有価証券の取得原価と期末評価（取得原価、期末評価）、資金運用の損益について説明し、金融資産の会計処理について理解します。	教科書の該当部分の読み込み（2h）
第15週： 営業上の負債と他人資本 負債の範囲と区分、営業上の負債、他人資本の調達に伴う負債（借入金、社債による資金調達、普通社債の発行と調達）について説明し、負債の概念と会計処理について理解します。	教科書の該当部分の読み込み（2h）
第16週： 営業上の負債と他人資本 他人資本の調達に伴う負債（転換社債と新株予約権付社債）、引当金（引当金の本質と要件、引当金の種類と区分表示）、偶発債務について説明し、負債の概念と会計処理について理解します。	教科書の該当部分の読み込み（2h）
第17週： 資本の充実と剰余金の分配 資本の意味と区分、資本金と資本剰余金（会社の設立、増資、その他資本剰余金）について説明し、資本の概念と会計処理について理解します。	教科書の該当部分の読み込み（2h）
第18週： 資本の充実と剰余金の分配 留保利益とその分配（剰余金の配当と処分、会社法の配当制限、損失の処理）について説明し、資本の概念と会計処理について理解します。	教科書の該当部分の読み込み（2h）
第19週： 財務諸表の作成と報告 法定された会計報告書（会社法の計算書類、金融商品取引法の財務諸表）、損益計算書（収益・費用の源泉別計算、利益の段階的計算）について説明し、具体的な法規制の内容と損益計算書の表示について理解します。	教科書の該当部分の読み込み（2h）

第20週： 財務諸表の作成と報告 貸借対照表（流動項目と固定項目、貸借対照表の区分表示）、株主資本等変動計算書（株主資本の変動、包括利益の表示）、会計方針の注記について説明し、貸借対照表の表示やその他の情報開示について理解します。	教科書の該当部分の読み込み（2h）
第21週： 連結財務諸表 企業集団の財務報告、連結貸借対照表について説明し、連結財務諸表の基本的な概念について理解します。	教科書の該当部分の読み込み（2h）
第22週： 連結財務諸表 連結損益計算書、持分法による投資損益、株主資本とキャッシュ・フロー計算書について説明し、連結財務諸表の基本的な概念について理解します。	教科書の該当部分の読み込み（2h）
第23週： キャッシュ・フロー計算書の仕組みと特徴 キャッシュ・フロー計算書の成り立ちや、利益計算との違いについて説明し、その意義について理解します。	教科書の該当部分の読み込み（2h）
第24週： 非営利組織の会計 非営利組織における会計について概観し、国や地方自治体の財務諸表について理解します。	教科書の該当部分の読み込み（2h）
第25週： 非営利組織の会計 医療法人や社会福祉法人の会計・財務諸表について理解します。	教科書の該当部分の読み込み（2h）
第26週： 財務諸表分析の基礎 財務諸表分析の方法、収益性の分析、活動性の分析について説明し、財務諸表を読めるようになるための基礎的な知識を習得します。	教科書の該当部分の読み込み（2h）
第27週： 財務諸表分析の基礎 流動性の分析、安定性の分析、生産性の分析について説明し、財務諸表を読めるようになるための基礎的な知識を習得します。	教科書の該当部分の読み込み（2h）
第28週： 財務諸表分析の基礎 成長性の分析、配当性の分析について説明し、財務諸表を読めるようになるための基礎的な知識を習得します。	教科書の該当部分の読み込み（2h）
第29週： 財務諸表分析の基礎 キャッシュ・フローの分析、財務諸表分析の問題点について説明し、財務諸表を読めるようになるための基礎的な知識を習得します。	教科書の該当部分の読み込み（2h）
第30週： 総括 これまでの講義範囲をテキスト等を使用して復習するとともに、練習問題を解き、解答解説しより理解を深めます。	教科書の該当部分の読み込み（4h）
第31週： 期末試験 30回までの講義内容を試験範囲とします。試験時間は60分、テキスト、筆記用具は持ち込み可とします。ただし、ノート、配布プリントは持ち込み不可です。	

授業の運営方法	（1）授業の形式	「演習等形式」
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	財務諸表の作成ルールのみならず、その背後にどのような考え方があるのか、ということまで積極的に探求する姿勢をもつこと。
【知識・理解】	財務会計制度の内容と背景理論について理解していること。財務諸表に表示される企業活動の結果や未来を分析できること。
【技能・表現・コミュニケーション】	制度や理論について、人にわかりやすく説明できること。他人との意見交換を通じて、考察を深められること。

【思考・判断・創造】	財務諸表の制度や理論について論理的に考察し、自身の意見を持つこと。

〇成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	**期末試験・中間確認等（テスト）**	**レポート・作品等（提出物）**	**発表・その他（無形成果）**	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		**5点**	**10点**	
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	**40点**	**5点**		
【技能・表現・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		**5点**	**10点**	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	**10点**	**5点**	**10点**	

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

〇配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	**評価の実施方法と達成水準の目安**
レポート・作品等（提出物）	授業内容を理解しているか、創造的な考察ができているか、を評価します。
発表・その他（無形成果）	積極的に授業に参画しているか、周囲と協調して成果を出しているか、を評価します。